

WEB再録

IBITSUKE

木正華

後編



読むにあたってのご注意

こちらの作品は鬼舞辻無惨の過去について
本誌の掲載以外の情報は全て捏造の設定で描いています。
本作品を執筆中(現:20/11/15)の段階で
無惨の過去・生い立ち等について本誌で掘り下げされていない状態
で描かれた物です。それらを踏まえてお読み下さい。

当執筆者は平安時代の背景に詳しくありません。
手元の資料等で情報を得ているため、
歴史について真っ当なご指摘は控えて頂きたいこと申し上げます。





お前さん
お前さん

風呂も
ひたすら井た

食うも

寝るも



何か言えんやん

近

身体を一日中
繋げたままの
日もあれば

療養のため
一日じゅう
添い寝の日もあり



お天様の
香をまよって

お前から
だな？

お天様の
香をまよって
いるのは

以前よりへやは
日の香りで
溢れている



香は要らん

ただ一人
心に決めた者のみ
強く愛するのが

あの
鬼舞は無惨の
本当の姿

今までに会った
誰よりも強い
『好き』の匂い

寒い！
こんな
浮き立って

これもやる

毛が...

私の生き証人
ならば
米羹をつける

酔っていて
良いのだろうか

今朝したろ
さわり方ッ

夕餼まで
少し...

キゅっ♡

愛らしい

ほお餅が
大福餅が
ようだ

お前こそ
ちやんと食べる
横が足りて
ないだろ

高級食材
ばっか



愛らしいは
ないだろ

お前さん

お前？

私の
良いところは？

お前なんて
方々から
器量好しで
通つてゐる
じゃないか

炭治郎の
言葉で聞きたい



えっと…

気の利いた
言葉…？



色白で

綺麗な肌…
とか？

駄目
だったか
男で
色白は…

色白…か

…肌が白くて
良かった
ことなど
一度もないが

アッ

今、初めて
この肌で
良かったと
思えた

炭治郎が好むと
言うなら良い

できるだけ
コイツの興味を
自分から
そらさない
ようにしないと

この先鬼になる
瞬間が訪れた時に

阻止できる
存在でいなくては

無惨を取り巻く
この地獄の
どこかで

鬼になるきっかけが
あったのだとしたら

炭治郎も
おかつてに
立つてたのか？

そうだよ
手伝いを
するんだ

料理も
するんだ

ついて
こなくて
いいのに

階下げなんぞ
他にさせて
おけばいいものを

こんな遅くまで
夕餉にかけて
るのが
悪いんだ！

俺はもう
コイツの運命を
変えているのだからか

炭治郎

私のことが
好きか？

うん…

俺が無惨の
鬼化を阻止して

ん…
人として
恋い迷う事が
できたなら

お前が
申したのだ
口吸いは

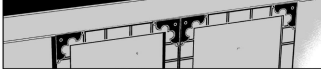
「好いた相手とする
愛情表現」だと

この先の未来にも
鬼は現れなく
なるのだろうか

流石にやる度
聞かれるのは…

…さよう
逢瀬ならもつと
身なりを整えん
とな

逢瀬？



湯浴みして
ないだろ今日...

ひろ...
ひろ...

くわえた
ままな！

炭治郎...
「業の行為」を
私と...

ここは終わった
過去の世界

神が俺にコレを
見せるのは一体

今更
何を意味するの
だろう



この感覚を
永遠にしたい

愛に飢えた...
空の身体が

ア
お前を
抱いていると
満たされる



愛されて
生まれてくる
ことが

人は

愛している
炭治郎

当たり前だと
思ってた



無惨
お前もそう
だったなら

俺はお前の
一言になるとは
言わなかった

一度は終えた
人生の残滓で

出来るだけの
ことをする…



…甘いだろ

強い匂いに
酔ってるから？

そっか、明日
母ちゃんとは
仲直りするの？

謝罪の意として
此方へ訪れる
とのことだ

まあ
破談を
恐れた
だけだ

全く
余計な
こと…

おまえは
何処へ
行く

して、

治療に使う
薬草を取りに
行くだけだ

せつかく天気も
体の具合も良好
なのに…

言つとくが
お前の為の
薬だぞ

帰ったら
避んで
やるから

おとなしく
侍つてくれよ

隣山で
あろう？

そうだ！
その草摘み
私もいこう

そうだけども…
病み上がりで
平気なのか？

馬に乗って
行けば
文句なかるう



しばし待て、着物を替えてこよう……

お前っ みんなの前で

笑っちゃいけないよが、お前さんように見せつけただけ

よく見る？ お前のせいで逆に見えちゃうよ

よそ行きのお出でしてこよう

おい！ 行き先は山だからな！

めかして行く所じゃないぞ



ものねえな

奥方は病む一方と聞くのにな

監視がないと腹の子を潰すと泣きわめくらしいわよ

鬼の子を孕んだって

皆がみんな早く思っていないのも仕方がないことだ

お腹の子……



けど

傷ついたまま

誰にも
愛されないまま



この人達に
とつて俺は
無惨を喫した
悪者なんだろうか



結局は無事に
生きていたの
だろう



あの時の無惨は
俺が助けに
入らなくても



大正まで
生き残ったと
思うと...



炭治郎



炭治郎……？

しまった

俺の中に
まだ

拭えない
記憶が



何故……
山に入るだけで
これほど
人数が……？

え？



で私だけ馬か？

お前が山に行くつて言つたから次々誰かが来て...

炭治郎はここに乗り

ではせめて



えあ...いいのか？

では、参ろうか



あんな大勢の
遠瀬があるか
馬鹿者

遠瀬じゃない
だろこんなの

何考えて
るんだ
あー！

あいーちよ
ムザン！

今頃
真っ青になって
探してるぞ…

ハッ

馬が暴れたせいに
すればいい
少ししたら
戻れば良からう

お前皇族の
自覚ないだろ

そうだな

いつものように
ここにこしてろ

先程のように
うっとり私を
見ていれば良い

してな…

あれは伴侶を
見る目では
なかったな

髪を晒すのも
悪くない

烏帽子も
取ってみた
お前を真似て

あ、あ

お前に
見せたかった
唐はどうだ？

炭治郎

え…



何か隠して
いるな
炭治郎

う、うん
似合ってます……



「たいしよう」の
夫婦は隠しことを
しないのだから？

無理は「い」を
傷めるからな

私のように



さっきの動きを
妙に感じたの
だろうか……



「たいしよう」の
「ムザン」は……



「ムザン」は

それ程
恐ろしい人物
だったのか？



最初：
私の悪態に
愛がなかったのも
それつが居たから
だろう



お前があのように
顔を歪ませる程
何があつた

そうか、コイツは
「ムサシ」が別に居ると
思い込んでるんだ



お前も「ムサシ」
とかに
してたの
だろう
「むさし」
とは



言わない
つもりか？
これからも
ずっと…

…



俺の母親は
「ムサシ」に
殺された



隠し通せるか？
こんな鋭い
切り込みに

またさつき
みたいに
へまを繰り返し
たら？

鬼とは
言わずとも



妹弟も

つウツは
ついてない



ついてないけど...

では
お前は...



仇に似た男に
抱かれてると
いうことか？

苦行では...
ないか



どうして
そんな

どうして...
そんな



どうして...
そんな

それはきつと
未来を思えばこそ

俺はずつと
そのために……

きつと

炭治郎

私は

二十まで
生きない病に
かかっている

……え

隠し事は
なしだ

この死相を覆すことは
どう足掻いても
不可能だと

陰陽師も医師も
口を揃えて言う

死産から
起き上がっている
身体は神の寵愛を
受けていない

私の周囲はな
思う私が
動いていない

だからみな
奉公せず
やりたい放題
してる私に
目を瞑ってるのだ

お前は、
亡き者として
扱われる未来に
居場所をくれた

私にとって
唯一の光だ

炭治郎

お前の心が
違うとしても
私は

お前を
手放す気はない

二十歳まで
あと幾許か

私に夢を
見させて
ほしい

哀れと想って
抱かれてくれ

どうか
手を

離さないで
欲しい

心……
違っても？

まるで俺が
本当はその気が
ないみたいに

ない……

せ

ああ

言うなら良い

たて

そうだ

できるだけ
コイツの興味
自分から
そらさない
それなら

香りが
無いのを
良いことに俺は

うまくやれている
はずだ

こんな真っ直ぐな
コイツの
好きな気持ちに

全く向き合って
なかったんだ

未来ばかり
考えて

いめ...

むぎ

そもそもが
そうだ

お前は

の違にう、

炭治郎

最初は
確かに同じ
だったんだ

「お前と」
「ムザン」は

許せるはずが
無かったんだ

けど...

どんだん
どんだん

知れば知る程
変わって
いくんだ

何もかもが
憎かったに
違いない

辛くて苦しくて
誰かに助けて
欲しかったのに

あいつは
寂しかった
んだ

誰も傍に
居なかった
から

今なら

わかるのに

俺は：
救おうとも
しなかった

厄介な男を
好きになったのだな

炭治郎は

だから
今度こそ

好き…？

俺が
無惨を…？

いかにも
その親殺しを

こんなにも
露をこぼして…

好きでなければ
空似相手にそう
易々と抱かれまいて

強い
嫉妬の香り

「私」を見る
炭治郎

お前の
柔い頬が
好きだ

照らす
眼光に溢れた
好きだ



私にしろ
炭治郎

そんな男など
忘れて

私とその
「むぎと」は
似ていたかも
しれない
けれど

私と「むぎと」の
違いは
お前が傍にいたか
いなかったか

それが
大きな違いだ



そやつより
私の方が
炭治郎を
分るのに……

私より……
炭治郎を
知らないくせに



私ほど、
お前を愛してる者は
この世に居ない
炭治郎



私を撫でる
小さくて
硬い指が好きだ

私を助ける
知恵が好きだ

私を恐れない
言葉が好きだ

「未来」のために
俺がした事は
とつづくに

私の
初いを
小唄が
好き

こいつを
救うための
行動になつてた

心から
無惨という人間が
好きなんだ

今度は絶対
不幸にしない

「しかと
聞かれてない

口吸いは
気持ち
確かめる
ものじゃない

「好き」って
伝えるもの
だから……

左様か

お前が
「むさん」に
抱いてる感情は

私には
関係ない

炭治郎



「私」はお前に
救われたのだ

お前という
存在に

あわよくばずっと
二人で永遠を
生きたいもの……

きつと俺は
お前をもう一度
救うために

そのために
ここに来たんだ

炭治郎



これ
…彼岸花？



お前の後ろ
それは華か？



形が歪だが
華なのか？

普通赤しかに
咲かないのに



なんか…
無惨みたいだ

綺麗だな…



青なんて
大正でも
見たことない

私？

他はみんな
赤いのに
こんなとこで
大青くなつて

病でも
歪な形

俺は…
この花…
好きだよ
無惨…

こんなに
立派に強気で
咲いてる

「奇妙には
見えないか？」

凄く綺麗だ

なあ

私の太陽…

産でもしっか
りか
喉でもしっか
りか
太陽を浴びるの
は
からだるう





そうか
共倒れか

それに
病のせいなら
俺が死ぬなら

悪いお前は
とつぐに
死んでる

死ぬときは
一瞬か？

まじで
そうだな



これほど
交わつて
お前の身体は
開かないのか

お前のアレは
炎症であつて
病じゃないつて
言つてるだろ



俺は随分前
じゃないつて
何度も
言つてるだろ

なんで
嬉しそう
なんだバカ

心中か

お前が
そう申すなら
「私が生きる
未来もある」
と「うん」が

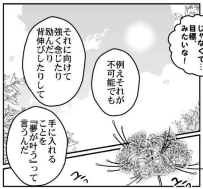




そんな夢、
スグに
叶うさ



生きて皆の
鼻を明かして
やりたいな
炭治郎！



それに向けて
強く念じたり
励んだり
背伸びしたりして

例えそれが
不可能でも

手に入れる
ことを
「夢が叶う」って
言うんだ



叶う？

寝ながら
見るやつ
じゃなくて…
目標
みないな！



では、
二十を越えて、
またここでお前と
陽を浴びることも
…？

「叶う」さ

お前の「天ぷら」を食べるのも？



作のち「叶えよう」

さあ、さあ



天ぷらは全然関係ないだろ

食べる！夢にしてみる

手料理！



二十でも三十でも五十でも一緒だ

そう約束したろ

生きるよ！俺も

一緒に生きてやるから

こうしてお前に逢えてよかった



身重だからな
来ないだろう

互いの顔など
見たくもない
かもな

無惨は

向こうが
謝ってきたら
ちやんと許すのか

…許す、だが
条件を提示する

正室と名乗る
あの女との
婚姻は白紙に
戻す

私が吐いた血を
あんなにも恐れて
ふっ…
何が血縁だ…

笑って
しまおうな
炭治郎

見ただろう
私の正室を

繋がり欲す
富豪から
はしたない娘を
母が無理に連れて
来たのだ

…っ



「監視がないと
腹の子を潰すと」

私は
炭治郎
だけでいい

「たいしようは
そうなのだろうか？」

泣きわめく
らしいわよ」



まっ
つて無
惨

白紙に
戻せない
モノがある

無惨：
それは
「大正」の話……

ここは
平安だ

トクン



だ
っ
た
ら
…
お
前
も
こ
ち
ら
に
従
え

…簡単
に
切
り
離
し
ち
や
だ
め
だ



匂いが
不穏だ

正室はときかへ
産まれてくる
命には

お前が私の
正室となれ
ここは「早産」
なれば

正室は
お前の子を
産めた人のことだよ
無情！

向き合って
やらないと



お前なら
誰より
わかるだろう？

愛して
やらないきや…



私に...かの子を可愛がれると思うか...

分かれ炭治郎

他の血などお前以下は泥水以下はない



違う...っ俺はお前みたいなのを寂しい思いを

こんなにも憂い姿をしてるのに何故お前は『子』を宿さない...

裏切つてなんかないのに

まあいい今から試す

生まれてくる子たさせたら駄目だつて



蓋をせんと
漏れるだろう

お前も
真面目にやれ

痛い怒りと
悲しみの匂い



おかし...

ちゃんとして

傍にいるから

支えるから！

孕め



鬼のような
顔をしないで



お前を
裏切ったりなんか
しないから



廣治郎！つ
さつきまで
微笑んで

ほ
私に、
好きと言って
くれたのに



愛すれば愛するほど
深い業を犯すことに
気付くのだ

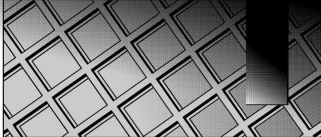
私もわかって
いる…のだ

それは俺にとっても

無常にとっても

向き合わ
なくて…







頭は鬼を
満すことで
いっぱいまで

誰より
理解してる
顔をして



傷つけたの
だろうか

あんな
正気を失うほど
怒って怯えて

お前が私の
正義と名れ
ここは「平安」
なれば



諫める
気でした?

好きだなんて
よく……っ



軽々しく

嫌われない
たかない

30 30



俺を
必要として
欲しい

ムサシ

ムサシ……
ムサシ……

ムサシ……

ムサシ……



今は昼…
なのかな？

扉が
開かない？



戸が全て
塞がれて……？



かきど
たんでい
い閉っ



逃げないよう
に閉じ込めたの
かな



ってことは無惨は今
母親と会ってるのか



隙間に入る
梯……
何か薄い……



私達が
こちらに
くるまで

それは
甲斐甲斐しく
手当をしてた
らしいですわ

自らの手で



貴方は…?

部屋に錠が
かかつて
おりまる

仕置きでも
されておる
のですか?

えっ

なんて…



憎悪

あの時は
私の夫に
手を差し伸べて
下さった…

一言礼を
申さねばと

匂いと言わず
声でわかる

壺門成治郎に



そんな
甲斐性が
あの方に

欠片でも
あつたなんて

どうして
ここに

では□□家の
益々の発展を
祈りましょう

では
はい
母上



炭...

炭治郎なら
医務部
です

は、
上様

これは...
どういう
ことだ

向者かに小刀で
首を突かれた
そうで

誰にやられたか
頭なにも
言わないんです...

その場で
取り押さえた
衛兵にまで

は

は

秘密にと
言い放った
そう

きね...

誰に
された

私から
二度と
離れるな

言わねば
私は悪い
限りを...

...



お前にも
聞かすとも
わかる

また



同じ目に
あわせてやる



俺はっ
大丈夫だからっ



あの
醜女か…っ

これ程までに
怒り狂った匂いは

子が…っ

お前ごときが
わたしを
脅かすのか

このままじゃ

母上の荷車を止めよ
紛れてきたのだ
捕らえたなら隠すな！
出せ！

ひと時も！

鬼になる

わかったから
ムザンの傍を
離れない！！

鬼にならないうた
！！！！！！



お前が
そんな事したら

お前の今まで
守って来た物が
全部……

そうしてまで
護る価値など



炭治郎……

ここには
もう無いんだ
炭治郎……



私は今

お前を、
失うのが
一番恐い

恐くて
抑えが効かない





無惨……

大切な人が
傷付いたら

お前くらい
怒って当然
なんだ
本当は

お前の母も
正室も

無惨の手を
取ってやれば

ほ

ほ

そんな簡単な
こともここでは
望めないのか

全く
その通りだな

価値を
失つてく
何もかも



自分のいる世界が
ますますくだらない



俺は、死が近づく感覚を知ってる







どうか
信じて

前に話した
「鬼」と
「鬼殺隊」の話
覚えてるか？



今なら
俺と一緒に

辰治……っ
今……

来てくれる
だろうか



ついて来て

この先

「鬼の始祖」に
なるのは
お前なんだ

無惨



むかしから
鬼はいた



鬼は人間を
殺して喰べる



身体能力が高く
斬り落とされた
肉も繋がりに



たちどころに
治ってしまう



太陽の光が
特別な刀で
首を斬らない限り
殺せない



人間を鬼に
変えられる
血を持つ鬼は



この世に
ただ一体のみ



1番初めに鬼に
なったもの



それが
お前の家族の…



いつ：どうやって
鬼になるかは
分からないけど

目の確かない
村にでも
逃げよう

ここに居たら
いつ鬼になつても
おかしくな……

無惨……

ニヤキ



どうしてお前は
私にそうまでして
共にいるのかと

お前の復讐劇は
これで終わりだ

炭治郎



許すなっ！
炭治郎！

討つべき
仇だろう…

おまへを
殺すな

おまえを
殺すなんて…

そんなこと、
…夢にも
思わなかった

なんでっ



好きな人に
殺される
なんてっ

おまえは
何もして
ないかっ

皆に冷たく
されて

出世の道具に
されて…

最期はっ

こんなっ

なりたくもない
病に苦しんでっ

あんまりだっ



私は…

お前が初め、
私の肩で涙を流した時
どう思ったと思う？

何もかも
失ったお前が
私に縋り付く姿を

炭治郎…

血が…

とても愛い
思った

全て奪って行く
私しか求めなく
なればいいと

それは、
そう私が
願ったから
本当に

無惨…それは
俺にとって

『過ぎ去ってしまった』

「思う」ことは
誰にだって
あるよ

目の前のお前は
「まだ」
綺麗なんだよ

まだ
鬼じゃ
ない

だから

オレと一緒に
未来を変えよう

あの、
炭治郎から出た
模範を翻す言葉



ひん...

お前の傷の方が
深かつたろうに

大丈夫だ



私を想って
出た言葉

なんて
美しい

あーっ



しん...

「お前に
「裏れ」を思っ
て
お前を
「裏か
れてくれ」
って
言
われた
時

後悔した



自分より先に
お前にバレて
た



知らない
うちに
お前に
そう
思
わ
せ
て
た
ん
だ
っ
て

上辺の「好き」を
並べてお前への
気持ちを
誤魔化してたのを

寂しい思いを
させてごめん

ちゃんと
好きだよ
無償

この気持ちをもう
見失わないよう

私がいつ
お前の気持ちが
上辺だと申した

確かに
「むっさん」と言う
空似が他にいないと
考えてはいたが

お前は…

私が
傷つくことを
あれ程に怒り

お前が
「むっさん」を想う
気持ちより
私のことを想う
気持ちの方が

勝っている
と
思っていた

身体を開き
全てを
受け止めて
くれた

いつでも
寝首を握れた
しななかった

それが
愛でなく
なんだと
言うのだ？

ずっと私を
好いていた



未来永劫に
私だけの太陽

俺をこんなに
必要としてる

千年先まで
愛すると誓う

Kanashimi

千……
二千でも
五千でも

たまたまか

「大正」が
千年後とは
一言も

まさかね……

行くう

3枚も
着込めば
大丈夫だろ

薬と
出先で
取れない
薬草と…

1番外に
黒を着て

少しほどは
金を持って

私のもの
お前は…

目輪刀と…
もう一本…

唯一鬼の頭を
斬れる刀



ん？

刃こぼれ…？
正室の時のか

まあ、いいか
これほもう

この先権が
コイツの傍に
いる限り
鬼は現れない

鬼なんか
に
させない

絶対に



行こう



夜馬番はいない
門番も見えないなら外だ

中から突破する者が
いるとは思わんだろう



さあ



外へ行かれ
たぞ?!

何処から

おれい
おれい

おれい
おれい

しっかり細め
離れるな

おれい
おれい

「かけおち」など
すぐの把握は
無理だろう

ああ

あつ!
月明かりの
ない方





どうだぞ
生きなきゃ...

安心しろ

ずっと一緒だ

はっ

無惨、お前は
俺に守られる
運命なんだ

ここに居よう



よかったのか

絶対に無惨を
鬼にしない

人として

人任せでも
幸せにする

うん...
俺にはもう

あれは
お前の



必要ないんだ



動づかれるな
無惨に……

おれ

ムサシ……

無惨を守るため
ではなかったこと

俺がここに
来たのは

ハツキリ
わかったこと

神によって俺は
この舞台から消滅する
ということ

炭治郎っ…
こんな時に…

もし
連れ戻されても
…また

悪りずに
逃げてみようっ

大丈夫だよ
ムザン…

まだ日が昇るまで
時間はある…
から

俺にとって
日輪刀を捨てるのは

神にとって俺が
日輪刀を捨てるのは

繋がってたんだ
日輪刀と

「この先、無惨が
鬼になっても殺せない」

つまり



用無しと
いうことだ



ああ、神様

こいつを残して
逃かせないでくれ



約束したんだ
生きるのも死ぬのも
一緒だつて

ご飯だつて
食べないんだ

安心して
眠れないんだ

味方が居ないんだ

守ってやらなきや

あとは
信じるしかない

鬼になることなく
誰かと幸せに
なることを

その隣に
居られなかった
ことが

こんなにも

じたん…

ろ？

愛してるんだ…

私を置いて

こんなにも

どこへ
行く…



まってくれ
私の…

太陽

一縷ではなかったのか



炭治郎が消えた

目覚めた無惨が
見た太陽は
夕刻のものでった

今更

幾日が経ったか

炭治郎……
何処に
行ったん
だろうね

逃げたとは
思えないわよね
上様だけが
戻るなんて

何が
あつたの
かしら

あんなに
愛し合つて
たんだもの
無理もないわ……

宮中は口々にそれを
「おかしくなつた」
「さらわれた」と

隠





また
ここかっ

いんげん
上様あー



私を置いて
いすの...



本当に
炭治郎は
消えたのね

治療に専念する
名目で理床を別邸に
移された



鳥辺野^{トリノノ}まで
探しに行った
そうよ

正室も子と
地方に
隠れたわ

野盗なら
上様だけは
無事なのは
不思議だね

行方知らずな限り
疑われるもの...
此処には
居られないわよ



次第にモノを
食べなくなり

口も
きかなく
なり

病は悪化を
極めると

隔離された

私はおそらく
死ぬまでこの中だろう

こうなると皆
私の命になんの
関心もない

誰の障害でも
なくなつたのだ

黙ってても
勝手に死ぬだろうと

母と言えば
女の代わりには
うさんくさい医者しか
送らなくなつた

起き上がるのは
難しいですか？

棒のような手足を
気色悪い手で測っては
「これはあと一月」
「あと半月」としか言わない

あと少いで
呪われた命が尽きる

それとも
地獄とやらに
いくのだろうか

はたして、私は
極楽へは
縁ないだろうか

お前は
もう……

そちらに
いるのか

大きい瞳

吸い付くように
柔い頬

太陽の匂いを
纏った身体

むぎんっ

優しい声

最期に一目

逢いたかった

鬼になりますか？

いま…な

今のままでは
間もなく
貴方は死にます

しかし
「鬼」になれば
長く生きられます

適性があれば
身体も忽ち
丈夫になり

みるみる
元気になります

ですが…



それは

「たらしやう」まで

生きられるか





「たいしょう」が
なんの事だが
分かりませぬが



長く生きられる
のは確かです



炭治郎の声がする



鬼になつては
ならないと



私が独自に
調合した秘薬です
他の者には決して

逢いたいのだ

口外しては
なりませんよ

炭治郎

逢って

もう一度
あの花を見たい



忘れてしまう
まえに



忘れてしまう
まえに

…これでは
炭治郎と
陽の下を
歩けん…



青い…
彼岸花…



青い…
ひがん…



はて



抜け落ちてく



どこで…
見たのか



大切な

大切な



全て喰った



邪魔者は



やつと外へ

おまえを
探しに行ける



…はて



…誰を？



私が憎くいか

私を赦すな

愛しい君よ

さあ

はやく



私のもとへ

は

は

は



終わった過去

これらはもう

は



は



は



は

は



ひとりぼっちで生きて

生きるのも死ぬのも

なんで鬼になつたかなんて忘れて

約束したのに

一緒だって



逢えるんだ

そっちなのか...



どこに行ったら

いそぐ...



アナタ？

月曜ってば
黙って1人で
駅前橋に
乗ろうと
したのよ

警察からし
電話が！
東京に行こうと
したみたいで

まだ
あの子
小学生
なのに

あそこ！
いつも窓際で
日向ぼっこ
してる子！

月彦くん？
あーでも
相手が居るん
だつてさ

成績良いから
東京の大学も
受かってて
行くらしい

マジで？
すっげ

なんか
いつつも
何か探してる
よね月彦くんて

俺あんま
喋ったこと
ねーや



はぁ！



すみません
閉店に……

『藤門 辰治郎』で
間違いないな

……俺に？

私からの花は
受け取れないか？





嘘をついてる
匂いが

貴方から
しなくて

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature



Handwritten signature

Handwritten signature



無惨...

その名で私を呼ぶということは

思い出したのは...

お前...俺にまた会うために

鬼に...

そこまで

お前の記憶がないのを良いことに現代でも私は

お前をオモチャにした

もう私は鬼ではなく普通の人...

ここで討とうが好きにしる



…バカだなあ

本当にバカだ

カッ

どれ程…罪深い
ことをしたか…
わかってるのか？
のうのうと
生まれ変わって
こうしてる事が

カッ

どれだけの命が
振り回されたと
思ってる！



「俺たち」の
運命に



私は
後悔していない

お前の仲間も
家族も殺したとこと

愚行ばかりの
私を嗤えよ

鬼を選んだ
のは……

本当はそんなこと
思っていないけれど
何かが恐いと
そうやって
皮肉ばっか！

一人に
なるのが
恐いくせに

ばか

「俺たち」
2人で
地獄行きだ

一緒だ

炭治郎

私はお前の
忠告を聞かず

鬼になった

お前があれ程に
してくれたのに

お母...

炭治郎

逢いたくて

逢いたくて

俺も

逢いたくて
ここまで
追って来たんだ

神などいない

今日は
じゃあ改めて
天ぷらにするか？

天ぷらの漬の
天ぷらか？

！お前の好物は
どうも
私の口には
あわん

何故なら炭治郎が
二人と言った

色々食べても
飽きないな

もしこの世に
神がいるならば
忌む者として
私の命を消すだろう

お前の作る
お味噌汁は
何となく
味が違う

地面に落ちて
これがない

私はこれが
あればいい

神は
それだけの
強さだぞ

神はいけない
炭治郎

確信している
神に負えるか

けれどこうして私は
再びこの男のいる世界へ
生まれ落ちた

誰か助けて

死ぬときは
一瞬だろ

強く急げれば
夢は必ず叶うのだ

神は思った

驚異の種を
幾度も消そうとした

しかし
強い念を持つ魂は
神の手をすり抜け
世にいでたし

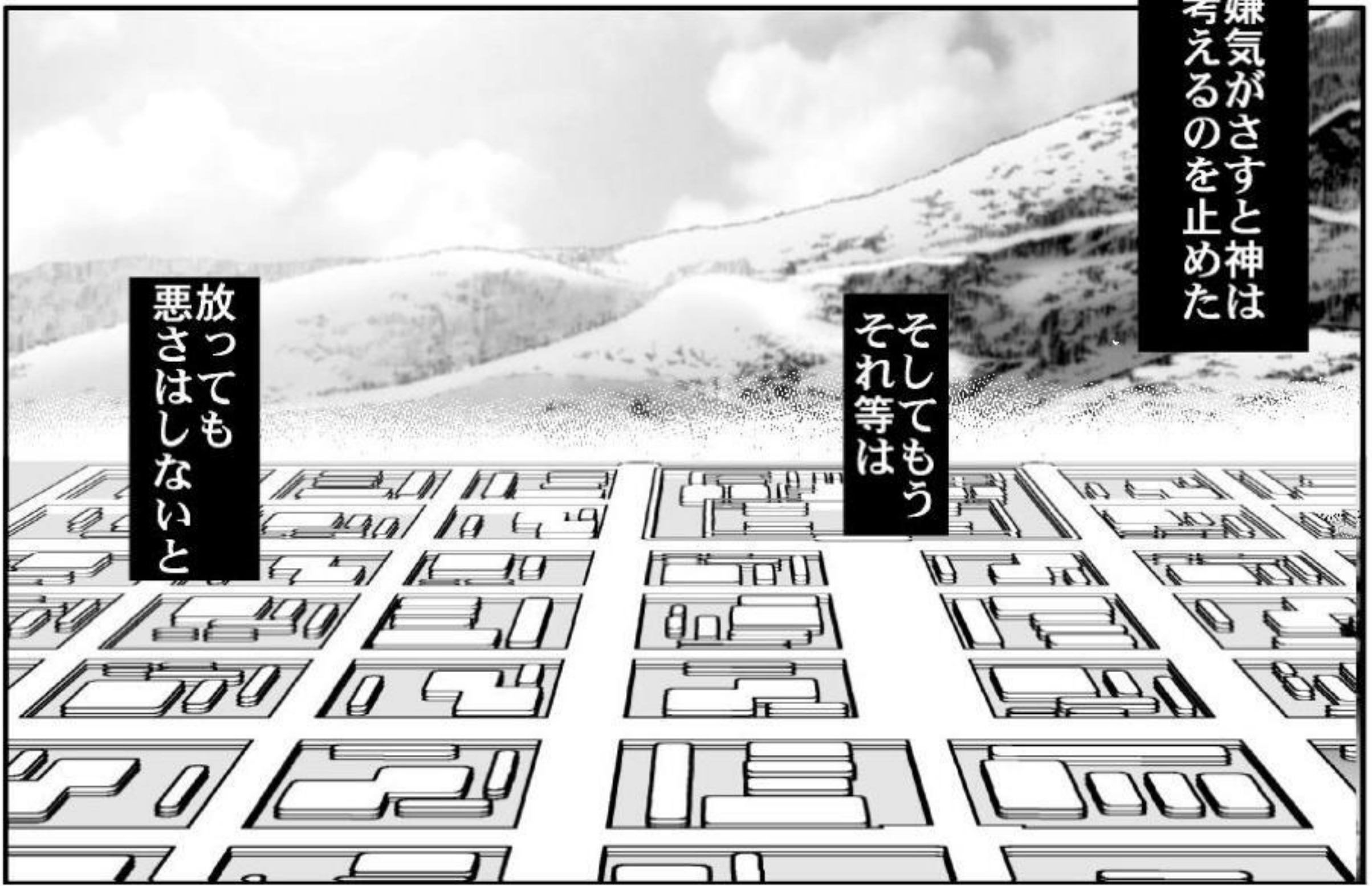
邪氣を消しても
病を宿しても
呼吸を止めなかった魂は
鬼となり驚異へと化す

阻止すべく
手は返くした

差し向けた「刃」でさえ
見初めてしまう
この傲慢な魂は

さては神の力をも上回り
神の手さえ操ったのでは
なからうかと

愛しき「刃」に
出逢うがために



嫌気がさすと神は
考えるのを止めた

そしてもう
それ等は

放つても
悪さはしないと

どんなに記憶を燃やそうが、
愛する者の刃を差し向けようが、

この魂は不屈だった。
それだけの話。

鬼滅の刃

これは『愛の物語』だった

鬼舞辻無惨と竈門炭治郎の
たった二人の。

『歪華/後編』
2021/04/03 発行
サークル:「君に決めた！」
描いた人:うに
Twitter:AWAMORI0808

前編後編をご購入して下さった方々へ
拙い捏造本をここまで読んで下さってありがとうございます。
事のきっかけは鬼滅本編終了後に考えたよくあるネタです。無惨が生に執着した理由が
『炭治郎に逢いたかった』たったそれだけだとしたら。そんな所からです。
1月末に描き終えるつもりで始めた原稿でしたが、とってもとっても遅くなってしまいました。
前編に引き続きお待ちして頂いてた方々へ大変お待たせ致しましたこと深くお詫び申し上げます。
pixivにまた『歪華』に関する何か投稿したいと思っています。
その際、またはどこかでお会い出来たら光栄です！
ウニ

2022/04/03【追記】

読了ありがとうございました。
以上をもちまして、『歪華』のWEB再録は終わりです。
前編とも感想やあたたかいお言葉有り難う御座いました！
これからも鬼舞辻無惨と竈門炭治郎を愛でる腐女子で
力強く生きていきます…
鬼舞炭に興味を持った同士さま…！
鬼舞炭オンリー3、まだまだサークル参加…間に合うかな？
是非こんどは同じ沼でお会いしましょう…！

うに

下はおまけの落書きです…↓



平母のうかがい。



記憶の戻り
前の日モ
フリに
おたのしみ
でした草。

ニハ
ニハ
ニハ

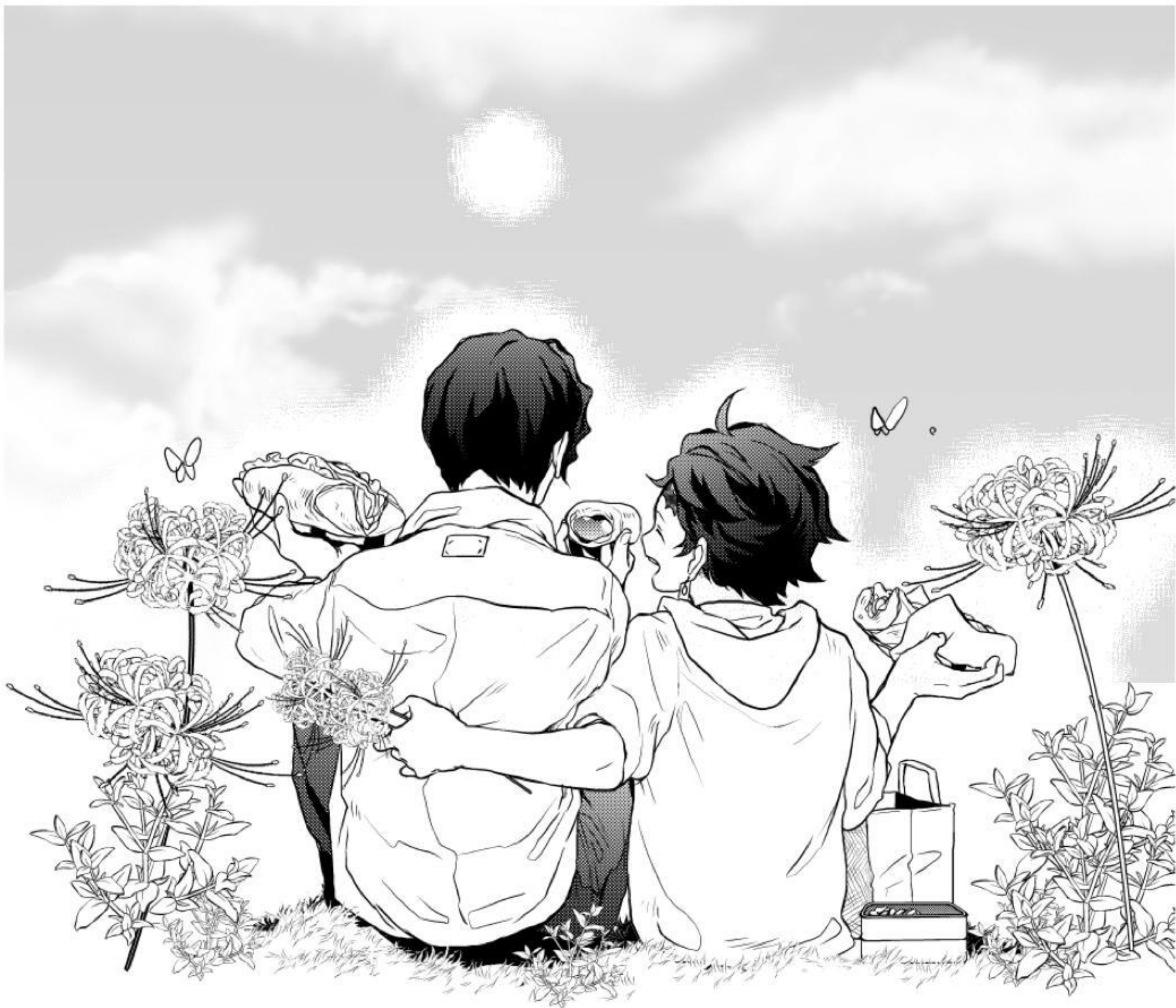
ニハニハ

その後...。

2人にとって
長い長い旅だった。
「強く願えば夢は叶う」
4人の魂に呪いのように
刻まれた言葉は
炭治郎が教えてくれた
希望の言葉だった。

記憶が戻ってから
ずっとなんか
泣いたようだ
KPSGHT





「よかったな！無惨夢が叶った！」と申しておぼす。

ながなが ^{私めの} 妄想におつきあひ下さり本当に
ありがとうございました。
うに*

天野〇子さんが聞きました。